

# 科学技術イノベーション予算戦略会議（第2回） 議事概要

1. 日時・場所 平成25年7月16日（火）13:00～14:00  
於：中央合同庁舎4号館 共用第4特別会議室

2. 出席者 山本科学技術政策担当大臣（議長）  
総合科学技術会議 原山議員、久間議員、橋本議員  
内閣府 倉持政策統括官（副議長）、森本審議官、山岸審議官  
内閣官房 赤石日本経済再生総合事務局次長  
警察庁 内藤長官官房技術審議官  
総務省 武井大臣官房総括審議官  
外務省 廣瀬軍縮不拡散・科学部審議官（代理）  
文部科学省 土屋科学技術・学術政策局長  
厚生労働省 三浦大臣官房技術総括審議官  
農林水産省 雨宮農林水産技術会議事務局長  
経済産業省 片瀬産業技術環境局長  
国土交通省 難波大臣官房技術総括審議官  
環境省 清水総合環境政策局長  
防衛省 渡辺大臣官房技術監

## 3. 概要

### <開会>

冒頭、議長である山本大臣から以下の挨拶があった。

- 6月に閣議決定した「日本再興戦略」と「科学技術イノベーション総合戦略」を着実に実行に移し、結果につなげることが重要。予算戦略会議によって「スピード感」「一体感」「実効性」のある予算編成プロセスを実現していきたい。本日は、アクションプランとイノベーション創出環境整備に関する予算重点化等のプロセス、「戦略的イノベーション創造プログラム」の仕組み、体制、対象課題の検討状況を示す。特に「戦略的イノベーション創造プログラム」は、内閣府が自ら予算を計上して、総合科学技術会議が府省の枠を超えた重要課題に自ら重点配分するという、これまでに無い画期的な仕組みであり、その制度設計や対象課題の選定は極めて重要。いずれも今夏にとりまとめる予定の26年度の資源配分の方針につながるものであり、本日の議論を踏まえて総合科学技術会議でも議論したい。

### <議事>

#### (1) 平成26年度科学技術重要施策アクションプラン及びイノベーション環境創出に関する取組について

（内閣府から資料1、資料2に基づき説明の後、意見交換。）

#### <関係府省等の主な発言（ポイント）>

- 日本経済再生本部においても、政策実行において中身のあるものをしていくことが重要であり、とりわけ総合科学技術会議の司令塔機能の強化は極めて重要と認識。
- 科学技術関係予算、科学技術振興費の総額を十分に確保していくことが重要。

- アクションプランは極めて重要な取組であり、関係省庁として前向きに協力したい。予算重点化が実効性を持つため、必要な予算の確保につながるものが重要。今既にうまくいっている施策についての継続性も重要。アクションプラン全体を見渡して重要なものが戦略的イノベーション創造プログラムにつながるよう、うまく連携し合うことが重要。
- イノベーション環境創出に関する取組については、産学が総力で企業が事業化をリードする産学連携や研究開発税制など、関係省庁として積極的に取り組みたい。府省横断的な課題は総合科学技術会議で取り組むことが重要。資源配分方針に明確に盛り込まれ、重点化や財政当局への後押しをいただきたい。
- 研究開発法人は、大学、企業だけではできないイノベーション創出に重要な役割。総合戦略に基づく世界最高水準の新たな研究開発法人制度の創設をぜひ実現していただきたい。

#### <山本大臣及び有識者議員の発言（ポイント）>

- アクションプランについては各省庁から協力いただくとともに、各省の予算要求についても、総合科学技術会議がアクションプランで後押しできるようにしたい。戦略的イノベーション創造プログラムとも整合させて進めたい。これまで重要としてきた取組との継続性についても検討したい。科学技術予算の確保についても各省と協力しながらやっていきたい。世界最高水準の研究開発法人に関する制度については、調整が必要だが、文部科学大臣とスクラムを組んで実現したい。（山本大臣）
- アクションプラン、戦略的イノベーション創造プログラムにおいては、省庁の縦割り打破、府省横断の取組が大変重要であり、各省庁にはそうしたプログラムを積極的に推進してほしい。（橋本議員）
- アクションプランは形式ではなく、実効性ある中身の連携が重要。総合戦略第3章は概念的な制度であり、これまでの延長線では難しいので、具体的な事例として第2章にある具体的なプロジェクトの中で織り込んでいただく。ということが趣旨です。包括的なアプローチを実効性あるものとするため、各省間での事前調整に期待。（原山議員）
- 府省連携をしっかりとやることと、研究開発にとどまらず規制改革や国際標準化と連動することが重要。各省庁の計画では目標が非常に曖昧。世界に勝てる、定量的な目標値を出していただくことをお願いしたい。（久間議員）

## **(2) 戦略的イノベーション創造プログラムについて**

（内閣府から資料3に基づき説明の後、意見交換。）

#### <関係府省等の主な発言（ポイント）>

- このプログラムは極めて重要で、これまでにない画期的な取組であり、関係省庁として前向きに参加、協力、提案したい。市場創造、イノベーションの障害となる規制改革、政府調達などにつながる制度が望ましい。
- 議題に入っていない革新的研究開発支援プログラムについても、FIRSTの成果の実用化を目指しつつ、新たにインパクトの大きな課題に取り組むことが重要。
- ガバニングボード、PDなどの体制では、府省連携を実効的に進め、船頭多くして物事進まずとならない評価推進体制などが重要。

- プログラム実施における予算執行の形態については、関係省庁等のリソース、実態等を踏まえ、幅広かつ柔軟な制度でお願いしたい。関係省庁等への移しかえ、独法制度の柔軟性を生かした運営交付金としての支出を可能にする制度が望ましい。

#### <山本大臣及び有識者議員の発言（ポイント）>

- 今、現在、関係府省では概算要求に向けた検討が行われており、財務省でも概算要求基準の閣議決定に向けた検討が行われているものと承知。総合科学技術会議でも「戦略的イノベーション創造プログラム」の制度設計や予算計上に向けて各本部組織や関係府省と議論を重ねている。特に「戦略的イノベーション創造プログラム」の創設にあたっては、「国全体の研究開発予算について、効率化・効果の最大化を図る観点から見直しを行った上で、所要の予算を内閣府に計上する。」ことを、「科学技術イノベーション総合戦略」及び「日本再興戦略」で閣議決定。これら閣議決定に基づき、プログラムの創設に際してその財源や業務を担う人材の確保について、関係府省に協力いただきたい。（山本大臣）
- ライフサイエンス分野の扱いは、内閣の方針としてのNIHを含めた試みを前向きに受けとめて、全面的にバックアップしたい。総合科学技術会議として全体を俯瞰するという視点は必要だと思うので、具体的なことについては今後、議論して整理したい。（山本大臣）
- ガバニングボード、プログラムディレクターなど、評価等の体制については総合科学技術会議有識者議員の知恵を借りながら、議論していきたい。プログラムに関する管理法人、予算移し替え、運営費交付金の活用を含む執行の体制、複数年度の扱い等については、本日提示した原案を含め、各省庁の意見を聞きながら様々な方法を議論していきたい。（山本大臣）
- FIRSTの後継についても閣議決定を踏まえて、関係府省の知恵をもらいながら進めていきたい。（山本大臣）
- 戦略的イノベーション創造プログラム、革新的研究開発プログラムの実行にあたり、内閣府事務局の負担が極めて大きい。日本再興戦略にあるよう、司令塔機能強化に当たり、事務局機能の強化が必須であり、各省庁の理解、協力をお願いしたい。（橋本議員）
- 戦略的イノベーション創造プログラムは、事業規模、雇用規模でインパクトの大きな分野の産業競争力を徹底的に強くするテーマであることと、府省連携することが条件。具体的にはアクションプランの中から適したものを選んでいく。これを成功させるためには、いかに良いテーマを選び、いかに優秀なプログラムディレクターを連れてくるかが重要。さらに、厳しくもあり、しっかりと支援するガバニングボードなどの評価システムが重要。（久間議員）

### **(3) その他**

(内閣府から以下について事務連絡)

- これまで予算戦略会議で示された考え方をもとに、会議での議論を参考にしながら、今後、科学技術政策担当大臣と有識者議員において平成26年度資源配分方針の検討が行われ、総合科学技術会議本会議で審議いただく予定。

以上